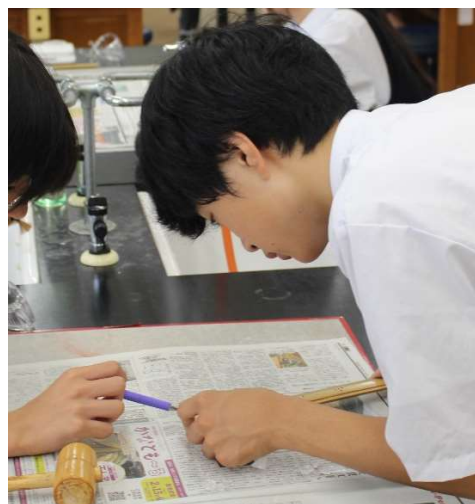


化学基礎「イオン結晶の性質」実験

7月某日、化学基礎の授業で「イオン結晶の性質」を学ぶ実験を行いました。



今回の実験では、身近な物質である岩塩を用いて、イオン結晶の特徴を理解することを目的としました。生徒たちは釘と木槌を使って岩塩を割り、その割れ方を観察した後、できるだけ立方体に近い形に整え、体積と質量を測定して密度を求めました。



続いて、飽和食塩水と純水の密度の違いを確かめる実験を行いました。色を付けた飽和食塩水を、純水の入った試験管の底へピペットで静かに注ぎ入れ、液体の様子を観察しました。実験結果をもとに、なぜそのような現象が起こったのかを考察し、密度の違いについて理解を深めました。



実験中は、実習指導員がさりげなく生徒をサポートし、安全に学べる環境が整えられていました。整理整頓の行き届いた化学室では、生徒たちが先生の説明をしっかりと聞き、実験器具を丁寧に扱いながら、真剣な表情で実験に取り組む姿が印象的でした。

科学技術の発展とともに、社会では科学的な視点や課題解決力を備えた人材への期待が高まっています。本校では、実験を重視した授業を通して、知識だけでなく、自ら観察し、考察する力を育てています。こうした学びは、理系・文系を問わず、将来さまざまな分野で活躍するための大切な土台となります。